



File: 22

協力隊としての活動も残り1年を切りました



今月の協力隊員 菅原 心 隊員
問 農政課 ☎ 22-2111



1



2



3

地域おこし協力隊ラストスパート（前編）

地域おこし協力隊となり2年が経過しラスト1年となりました。今回は前後編で、就農までの経験を自身の観点からお伝えしたいと思います。

まず地域おこし協力隊とは、「都市部から住民票を移動し、地域協力活動を行いながらその地域への定住を図る取り組み」となっています。定住を図るとは、職と収入、私にとっては就農でした。「やる気さえあればチャンスはすぐそばにある」といわれるように、すぐに収穫できる農地を借り、先輩方に丁寧に教えや支援を受け、地域の方々に受け入れていただき、スタートを切ることができました。

ただし、全てが順調とは言い切れない現実もあります。（次回に続きます）

- 1 信州なかの魅力発信アンバサダー養成講座に参加。「なんだ屋」で地域の食材を使った料理を振舞いました。
- 2 横浜北仲マルシェに出店した時の様子。売れ行きは上々でした。
- 3 農業経営塾に参加し、経営知識についても学びました。



池田市長の vol.74 わくわくレポート

地域が一つになって
地域のお店を支えていく

新型コロナウイルス感染拡大の影響下、経済活動が停滞している。地域のシンクタンクによれば長野県の景況感東日本大震災以来の水準まで悪化している。中野市でも市内飲食店経営者をはじめ多くの業種で苦しい経営を強いられている。

先ごろ長野県では緊急事態宣言が解除され、一時の緊張感がやや薄らいだが、ワクチン開発はその途上であり、感染が完全に抑え込まれた状況ではなく、予断を許さない。

そうしたなかで、慎重にかつ様子を伺いながら、徐々に経済社会活動を復活させていこうという動きが見えてきた。「新しい生活様式」により3つの「密」を避け、感染拡大を防ぎつつ、新常态ではあるが普段の暮らしを回復していく長い道のり



◀「新しい生活様式」を取り入れ、慎重に経済社会活動の復活を目指していくことが必要。

のスタートである。

中野市では経営困難やひっ迫している事業者の皆さんに、地元商工会議所と協力して、飲食店や小売店などを応援するプレミアム付きクラウドファンディング型の商品券発行を支援する。市民の皆さんと一緒に飲食店や商店を支援してほしい。各個店が発行するこの商品・サービス利用券は25%のプレミアム付きで、期間内にそれぞれ利用・購入手続きで支援したいお店から券を購入し、営業再開時に利用することで支援するものである。

地域が一つになって、地域のお店を支えていくこの取り組みに多くの皆さんの賛同をお願いしたいと思う。

私の提言

本市は、将来都市像の「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」を目指し、第2次中野市総合計画の政策にもある「市民参加と協働のまちづくり」を進めています。そこで市民の皆様から市政に対する具体的で建設的なご提言などをいただく「私の提言」を実施します。いただいたお手紙は私が直接拝見します。お寄せいただきましたご提言などは担当課において調査・検討を行い、関係部署と調整のうえ、お返事を差し上げます。

お返事を希望される場合には、お名前・ご住所・連絡先を必ずお書きください。お名前・ご住所・連絡先が記入されていない場合、お返事ができない場合がありますのでご了承ください。なお、ご提言いただきました内容は、市公式ホームページなどで公開させていただきますので、ご了承ください。

中野市長 池田 茂

(ここを折ってください・やま折り)

この用紙を三つ折り後のりづけし、切手を貼らずに投函してください。

問 庶務課 ☎(22)2111(内線212)

「私の提言」の用紙は任意です。メールと長野電子申請サービスでも受け付けています。

メール koho@city.nakano.nagano.jp



▲中野市公式ホームページ(私の提言)

25、26を切り取って、郵便ポストに投函してください



切り取り線

(ここを折ってください・やま折り)

中野市三好町一丁目3番19号

中野市長 池田 茂 行

料金受取人私郵便



有効期間
2022年6月4日
日まで

